



今回、「子どもたちの成長に触れ“今”思う事」というテーマを頂きました。

現在私は、年中クラスから持ち上がりの年長クラスを担当しており、子どもたちと過ごす中で子どもたちの成長の為に自分は何が出来るだろうとよく悩みます。一つの事に対して「これだ！」という答えは出てきません。「こうやってみよう！」「この前はこうだったけど、今日はこうしてもいい？」と伝えることが変わってしまうこともしばしばあります。最近の出来事でいえば“運動会”。年中クラスの時に年長児がしていた“瀬戸太鼓”や組体操、竹馬を見て「ぞう組になったらするんよね」と目をキラキラさせていた事を思い出しました。年中クラスでの運動会の取り組みで『渡り棒をみんな渡れるようになる！』と大きな一つの目標を立てた時、「やりたい！」と思える子もいますが「出来ないからしない」と運動用具に背を向け消極的になってしまう子も。「一日一回。5分交代。」と取り組みを進める中で昨日とは違う自分を発見でき、「今日もやりたい」と積極的な姿が変わっていった子どもたち。そして、運動会では達成できたことから、「年長になったら出来るんよね？」と当時の年長児を見て憧れの気持ちを持つ事が出来たのではないかと感じました。憧れの気持ちがある時がチャンスかなと思い、年中の運動会后より竹馬の活動を取り入れていきました。竹馬に乗る事に必要な事をまず考え…「①つま先で姿勢の維持！」「②足と手を同時に動かす」「③竹馬に乗るバランス」と必要なと思う事を3つ考えました。ひたすらつま先歩きでコンクリートの上を歩いたり、運動用具とにらめっこをして『これ使えそう』という物を持ってきてはチャレンジ。「難しい～」と子どもたちから一言。逆に「これ楽しい・おもしろい」とヒットする物もありました。子どもたちから「楽しい・面白い」と伝えてくれる言葉や笑顔に、「よっしゃー!!!」と自分の中でガッツポーズ。

それから、年長になって『みんな竹馬に乗れるようになろう！』と年中の時同様に目標を立てました。取り組みを続ける中で、子どもたちからも「〇〇使ってこうやったらどう？」と考えを伝えてくれる事や、「こうやってみたら簡単だった」等経験したことからアドバイスをしてくれたり…言葉で伝え合える年齢であることもありますが、ひとつの事に対して一緒に考えられるようになってきました。出来るようになる事で、子どもたちは自信を持ち心の成長も同時に…子どもだけが成長しているのではなく、自分自身も「このやり方では上手いかなかったけど、このやり方は上手いだった」と子どもたちと接する中で、一つの事に対する取り組み方のストックが増え、大きな学びとなりました。

また、活動を通して子ども同士の繋がりを感じる出来事がありました。運動会を目前に控え、クラスでは後2人の子が竹馬に乗れずにいました。「友だちを手伝ってあげてね」と伝えても「自分は出来るようになったから」と乗る事を楽しむ子や「まだ乗れないの？」という言葉もありました。「頑張ってるんよ！」と言葉で伝え保育教諭と取り組みを続ける中で、「手伝ってあげようか？」とある女の子。「お願い」と任せることに。すると、友だちに応援される喜びから1歩歩く事ができ、また1歩。その姿を見た他の子どもたちは、「僕も手伝ってあげる」と自分の竹馬を置き、しっかりと支えてあげていました。また、身振りや言葉で乗りやすい方法やコツを伝える中で、乗れずにいた2人の子も自分の力で進む事が出来るようになりました。運動会がある週に『みんな竹馬に乗れるようになる』を達成する事ができました。自分の事から友だちに目を向けるという事を実際に経験できた出来事でした。大人からの言葉では伝わりにくかった事が、周りの友だちを見る目が変わる事で、子ども同士でグングン成長するのだということをこの経験から学びました。2年間の関わりの中で成長ポイントは2つありました。一つは、昨日より出来るようになったという経験。二つ目は友だちに教えてもらったり憧れを持つことで出来るようになったという経験。

以上の事から、今後も子どもたちが安心して学び合える雰囲気を作り、自分自身の目標に取り組んだり、友だちと助け合える場を作っていくことで子どもたちの成長していく力を支えていきたいと思えます。

(2019年11月)

